

7/21
福知

大飯原発の地震動過小評価

規制委「再計算に問題」

原子力規制委員会は二十日の定例会合で、過小評価の可能性が指摘された関西電力大飯原発（おおい町）の基準地震動（耐震設計の目安となる揺れ）について、指摘を受けて行った再計算に問題があるとして、計算した原子力規制庁から次回以降、詳しい説明を受けられることを決めた。

規制委は十三日の前回会合で、再計算結果を踏まえ、基準地震動を見直す必要はないと判断したが、計算手法に関する規制庁の説明が不十分だったという。田中俊一委員長は二十日の会合で「規制庁はデータをそろえて説明してほしい。その上で議論したい」と述べた。

田中委員長は会合後の記者会見で、再計算について「私が無理筋を指示した。

もっと簡単に計算できると誤解した。計算は前提が成り立たず、判断根拠にならない」と述べた。

また、再計算結果を了承したことを「拙速だった。反省をしている」と陳謝。審査で了承済みの基準地震動を見直す必要があるかについては、審査での議論などを踏まえて「必要はないと思う」との見方を示した。

過小評価は前委員長代理の島崎邦彦・東京大名誉教授（地震学）が指摘。規制庁は島崎氏の提案に従い、別の計算手法を取り入れて再計算を実施。計算過程で断層面積などの設定に矛盾が生じたが、無理な仮定を重ねて計算した結果、審査で了承済みの最大加速度八五六ガルを下回る六四四ガルを算出したという。